

第1回 小郡市男女共同参画社会推進審議会 会議概要

○日時

令和2年8月20日(木) 10時00分～11時30分

○場所

小郡市人権教育啓発センター 大集会室

○出席委員(敬称略 50音順)

井上智美 岩城一磨 大塚光 柏タツ子 草場小夜子
楠良司 中村政弘、本須須美子、村山由香里、米倉鉄夫

○事務局

今井経営政策部長 高田総務広報課長 天野 平田

○次第

- 1 委嘱状交付
- 2 市長あいさつ
- 3 委員自己紹介 (ならびに事務局自己紹介)
- 4 会長・副会長選出
会長に村山由香里委員、副会長に草場小夜子委員を選出
- 5 会長あいさつ
- 6 議事

(1) 第2次小郡市男女共同参画計画 令和元年度実施状況報告について

(事務局説明)

(議長)

ご意見ご質問はないか。

(委員)

資料1、令和元年度実施状況報告書(案)について尋ねる。2ページ目の広報紙の「女と男 パートナースhip」のタイトルが古い気がする。今の時代に合ったものに変えてはどうか。また、内容ももっと個人にフォーカスして、人材の発掘につながるインタビュー記事などを取り入れてはどうか。

(事務局)

男女共同参画推進に関する記事を年に数回掲載しているが、事務局でもタイトルを変えたいという考えをもってる。いいタイトルを思いつかないまま、現在に至っている。ぜひ、今後、現代的なものに変えたいと思う。

(委員)

外国人の居住者も多くなってきたので、例えば「ダイバーシティ」とか、外国人の人権なども含めたタイトルはどうか。

(事務局)

コーナーとして男女共同参画に特化した記事だ。外国人の人権に関する内容は、別に「人権・部落問題シリーズ」というコーナーで扱っている。

(委員)

「個性が生きる」とか、「ともに生きる」とかいうのはどうか。

(事務局)

そういう案も含めて、適切なものを慎重に検討していきたい。インタビュー記事については、男女共同参画を身近に捉えてもらえるよう掲載に努めている。また、最近では市内でただ一人の女性区長と、女性を積極的に登用している男性区長のインタビュー記事を掲載したところだ。身近に感じ取っていただける啓発記事となるよう努めたい。

(委員)

DV被害者支援体制の整備について聞きたい。ホットラインと、総務広報課が受けた相談以外でも子育て支援課が受けた相談件数などがあれば数値を入れてほしい。

また、昨年度男女共同参画セミナーが2回開催されている。2回目のデートDVの講演に参加したが、内容がとてもよかったと感じている。しかし参加が少なかった。もったいなかったと感じている。女性への暴力防止運動の実施期間に合わせた期日で実施されたのだろうが、開催期日、時間帯、曜日、場所を変えることによって参加者を増やすことができるのではないか。

(事務局)

毎年、北筑後連絡会に子育て支援課と共に参加して、相談件数の情報は交換している。今すぐ数値を出せないが、今後子育て支援課への相談件数も掲載していきたい。

セミナーについては今後、コロナウイルスの状況を見ながらセミナーを実施していく方向である。期日、場所、時間等についても、参加者が増えるよう検討していきたい。他方、市の人権同和教育担当課による七夕人権考座というものがあり、共催という形も考えている。七夕人権考座では、市文化会館小ホールでの開催を計画しているようであるが、セミナーも市民が利用しやすい形を検討したい。

(議長)

実際のところデートDVやDVの講演となるとなかなか人が来てくれない傾向がある。むしろ人を集めるのではなく、例えば、中学校や高校など、人が集まっているところへ出向くというような形を検討してはどうか。

(事務局)

県では高校などに出前授業を行う制度があるがカリキュラムの関係でなかなかできていないようだ。DVやデートDVについての講演など、内容によっては学校に声をかけたい。

(議長)

ABCDの評価がある項目があるが、昨年セミナーの講師をしたものとしては、そのセミナーの項にD評価がついているところが気になる。

(事務局)

評価基準を1ページに載せているが、数値目標がある項目は、平成29年度の数値が基準となって評価することになる。セミナーは平成29年度の平均参加者が48名であったが、昨年度は平均すると40.5名であり、基準に照らすとDということになった。

(議長)

2回の平均値か。2回目のDVに関する講演は内容もよかったのに、参加者数で評価されて残念だ。

(委員)

コロナウイルス感染防止の時代になった今、人数を増やすのは難しいのではないか。Zoomなどを活用する新しい方向を考えると、人数で評価するのはどうかと思う。Zoomの利用などの新しい取り組みを。人を集める時代ではなくなっているのではないか。

(議長)

今年は特に工夫が必要になってきているが。

(事務局)

基本的には講演の形になるので、You Tubeでの配信になると講師の了承が必要。あすばるフォーラムもオンライン開催になった。その上映会を市でも行う予定だ。今後、県の動きを注視していく。

(委員)

パブリックビューイングの形か。それはいいと思う。当方の団体もコロナ禍の中での女性への暴力についてWEBであすばるから発信する。講師にきてもらい、あすばるから中継し、ライブでも見られ、ホームページからでも見られるようにする予定。

(委員)

当方の団体もあすばるフォーラム県民企画に通って、東京で企業の経営に関わっている方にZoomで参加してもらおう事業を開催する計画だ。当方の団体が、市役所のコミュニティ推進課でZoomの体験会をやっているので、連携してみしてほしい。

(議長)

もはや、ついていけないほど時代が変わってきている。しかし、だれもがついていけるようにお願いしたい。

(委員)

話は変わるが、デートDVを防ぐ啓発のために、若い世代にパンフレットやリーフレットを学校などで配布するのがよいかもしれない。

(委員)

本当に見てほしい人、聞いてほしい人、来てほしい人は、見ない、聞かない、来ないという印象をもっている。男性に見てほしいが、男性は見ない。どう男性を引き込むかがポイントである。男性に来てほしい、見てほしい、聞いてほしい。コロナ禍の中の女性の思いを男性に伝えたい。

(委員)

なかなか変わらない部分だと思う。

(委員)

野球は見ても、そういうものは見てくれない。年に1度、人権同和の総会では、会場が満員になる。一方、別の不登校の研修会の先生の話は、いい話なのに、参加者は女性ばかり3人のみ。いい話なのにもったいない。聞いてほしい人が来ない。心を痛めているその3人しか聞いていない。子どもは地域が育てるんだから、地域の人不来ないと意味がない。他の講演などと男女共同参画セミナーを一緒にすると、男性にも聞いてもらえるのではないか。

(議長)

他に意見は？

(委員)

学校の現状を聞かせてほしい。

(委員)

男女共同参画推進教育については、人権学習の一つとして実施している。男女共同参画に特化して行っていない。高校もカリキュラムが厳しく、できていない模様である。

小・中学校は人権教育の中で指導し、家庭でも保護者と話し合ってもらいたいと思っている。小・中学校で、子どもの頃に学んだことが、大人になって行動できると思う。保護者を対象とした研修は難しい。

(議長)

子どもは学ぶことができているのか。

(委員)

男女を分けるような教育は行っていない。教科書も男女共同参画を反映した記述がある。一方で、指導に当たって、身体的な性差について考えることもある。

(委員)

学校では名簿だけでなく、並ぶときも男女混合か。

(委員)

日常生活が男女混合である。男女というよりも個人として見るようになっている。

(委員)

昔は文房具や所持品も男の子が持つ色、女の子が持つ色と違いがあったが、今は様々な色のものがあり、性別による持ち物の色の違いはない。

(委員)

子どもの7人に一人が貧困という話を聞いた。フードバンクの実態をつかんでいるか。それに対する支援事業はどうか？

(事務局)

子ども食堂についてのご質問か。

(委員)

同じではないのか。

(事務局)

フードバンクはホームレスなど支援を要する人に、食品を提供する福祉分野の事業である。小郡にはホームレスの実体がなく、また、フードバンクに提供される食料品は長く保管がきかないので、市内では、フードバンクの活動はない。ただ、場合によっては、非常時に食料品を提供していただけるよう関係店舗と話を進めている。

(委員)

小郡には子ども食堂はないのか。

(事務局)

1件あると承知している。

(委員)

利用者は。

(事務局)

子育て支援課が担当している。一口に子ども食堂といっても、その形態はさまざまで、対象者が子どもか、その場合の年齢制限があるのか、それから高齢者も一緒か、支援するのはボランティアか、行政か、経費は寄付金で運営するのか、支援団体があるのかなど、いろいろある。そのため、統一的な支援が難しい。市もPRを行うとともに区長会にお願いしたり、側面からの支援を行っている。

(委員)

一部の校区で女性の会が老人や子どもに食事を提供しているという話を聞いた。

(事務局)

当該校区では、食の提供というより、子どもと高齢者の交流、ふれあいを目的としているものである。

(議長)

委員の質問は、子どもの貧困問題について指摘されているものだ。

(事務局)

就学援助を受けている家庭は市内で15%程度だと認識しているが。

(委員)

校区によってはそれを超えるところもある。しかし実際、学校で見る限り、子どもが食べ物に困っているのは、ほんのわずかだ。

(委員)

学校では、子どもが食べ物で困っているのを見たことがないのか。

(委員)

見たことはない。

(委員)

当方の団体では、DVで離婚した一人親の家庭にフードバンクとして、食材を集め、年間1回、県内の40世帯に送る活動をしている。

(議長)

では、令和元年度実施状況報告については、事務局案の通りでお願いしたい。
次の議題について事務局の説明を。

(2) 第2次小郡市男女共同参画計画 令和2年度重点施策について

(事務局説明)

(議長)

変更点は、今まで「DV支援体制の整備」だったものが、「DV支援体制の充実」に変わったこと。女性の登用の推進に、独自のスローガンを入れたことである。質問意見は。

(委員)

DVへの支援について、女性ホットラインが挙げられているが、あすばるではLGBTや男性のDV被害者の相談窓口の紹介も行っている。LGBTや男性に対しても情報提供をしてはどうか。

(事務局)

男性へのDVについて、またLGBTについては、広報紙やホームページに掲載している。カードは女性対象のものを公共施設の女性トイレにおいているが、カードの記載内容を変更し、男性トイレや多目的トイレ等を含め、設置することを検討していきたい。

(委員)

学校の様子を聞きたい。

(委員)

個々の人権課題を子どもに伝えるという方法は最近、追いついていない状況がある。女性問題は実は男性の側の問題であり、LGBTは広く人間としての問題である。差別としての根っこは同じで、差別する側の問題として考えている。その根本の問題にシフトして指導するやり方は、逆に具体的な課題が見えにくくなる。労働の問題、非正規の人の雇い止めは女性が多いという実態など、女性・子どもの問題は見えてこない傾向がある。保護者が仕事に追われ、子どもが一人だけで過ごしているという実態もある。アンテナを高くして、人権課題を見ることが求められている。相談できる人はまだいいが、どうしていいかわからない人、わからない子どもをどうするか、心配している。

(委員)

DV被害者支援体制の充実についてだが、カードによる情報提供などは、若い人を対象にしている印象がある。高齢者や認知症傾向がある人へのDVなどへの窓口を広げる必要がある。相談窓口をお願いしたい。女性が働きやすい職場環境について、ハローワークの求人情報を見ると、子どもへの支援ができていない求人情報がたくさん出ているのか、求人票からも伺える。就業規則の中で女性が働きやすいのかが見えるのではないかと。

(事務局)

高齢者のDV問題については長寿支援課と連携をとっている。高齢者のDVの場合は加害者から避難することが難しい状況がある。相談の窓口情報が届くようにしていきたい。高齢者のDV問題は若い人のDV問題と同じくらい深刻である。

(議長)

高齢の方は、DVをずっと我慢している様な状況もある。

(事務局)

コロナウイルスへの対応としての特別定額給付金の支給があったが、その際、DVに関する支給の方法が、徐々に緩和され、DV相談の確認書があれば夫婦別々に支給できるようになった。以前に相談されていない人もいたが、柔軟に取り扱えるようになって、別々に支給した例もある。相談できていない人も潜在的にいるように思う。相談電話をアピールしたい。

(委員)

役職上、地域活動をしているが、自分の校区ではDVは聞かない。数字を見ると小郡市でもあるようだ。ホットラインの充実で対応していくしかないのではないかと思う。コロナウイルスの関係で、DVが増えるという話も聞くが、ホットラインで対応することが必要だ。

協働のまちづくりで、区長とも連携しているが、女性区長が少ない。女性は、区長職につながるような経験や仕事をする機会が少ないので、区長になりにくいのではないか。

(事務局)

女性の区長は、広報おごおり8月号でインタビュー記事を掲載しているように、今は、市内に一人である。区の役員も男性が多く、すぐに区長にはなりにくいようである。まずはできるところから、女性の参画をお願いしたい。

(委員)

以前、3年間区長職を経験させてもらった。その前に副区長を2年した。うちの区では前にも女性区長が9年間務めており、その際、区の役員の半分は女性が行うようにされた。前の区長のやり方は良いと思う。自分には区長職は無理だと思っていたが、所属していた団体が、男女共同参画を進めていたので、区の人たちに協力してもらって、自分でも区長をすることができた。区長時代、副区長や公民館長がとてもよくしてくれた。協力体制が良かった。「一緒にやりましょう。できますよ」と背中を押すと、女性区長もたくさん生まれるのではないかと思う。

(議長)

いい経験だと思う。「役員の半分を女性に」という取り組みは、とてもいいと思う。市内の全区がそうなればいいだろうが…。

(事務局)

自治会の中でそういう機運が高まればよいと考える。

(委員)

いろいろなことにたくさん参画すると、やらなきゃいけない時が来ると思えるようになるのではないか。

(委員)

女性区長の取組み、すごいと思う。男性区長の場合も同様ではないか。支援・支持してくれる人たちがいることが大切ではないか。個人を支援できるよう人々の意識を変えていく必要があるのではないか。以前、女性の研修の機会に参加者を50人集めるのに苦労していた。その後、100人集まるようになり、今度は資料が足りなくなることもあった。そして、その研修に男性も来るようになった。

(議長)

これからの時代は、Zoomの視点、コロナの視点は必要だ。

(委員)

相談しやすい形にすることが必要。

(委員)

市ホームページの市長の動画配信はとていいと思う。今は市の職員が情報発信する時代だ。課の情報を動画で発信できないか。

(委員)

いろいろな機会に市長から挨拶をいただくが、公務のため、途中退席が多い。県議や市長の途中退席は、少し残念に思う。短時間でもいいから話し合いに参加してほしいと思う。

(事務局)

公務があり、すべてそうなるのは難しいが、市長に伝えたい。

(議長)

慎重に審議検討いただき感謝している。事務局の提案通り、本年度の重点施策を進めていただきたい。

4 今後のスケジュール

(事務局説明)